

## 水



この夏、スイカを食べていて思い出した。子供の頃、種を食べるとおへそからスイカの

芽が出てくると大人に言われたこと。昨日テレビで放映された『エイリアン 2』の映画を見たせいだろうか。それで気まぐれに台所の窓を開けて思いっきり「ぷっ！」と種飛ばしをしてみた。従妹たちと縁側に座りこれをよくやったことを思い出す。飛ばされた種が土の上に落下し雨が降りやがて自然に発芽することも可能であろう。しかし、先日アメリカが撤退と同時にタリバンに支配されたアフガニスタンではどうだろうか。雨が極端に少なく砂漠化荒廃した土地では自然に発芽することは絶対に不可能であろう。「生物」が育たない水の無い土地で信じられている「イスラム教」を我々が理解することは大変難しい。少しでも知るために「水」をポイントに考えてみた。

随分昔に職場の上司に勧められて読んだ藤原新也さんの本を思い出した。彼は写真家でもあり作家で、現在その本は手元にないのでタイトルも忘れてしまった。彼は写真を撮りながら世界を旅して何冊かの本を出版している。今回思い出した本は、トルコ・シリア・レバノン・イランからパキスタンを旅しているものであった。彼がバスで移動中に喉が渇き水筒から水を飲んでいると、近くに座っていた男性がただ事ではない喧噪で著者に怒り始めた。それはラマダン(イスラム教の戒律で断食期間)であったことをすっかり忘れて水を飲んでいたので気が付いた。ラマダン期間中は日出から日没ま

では食べ物も水も断たなければならぬ旅行者も例外ではないようだ。何故イスラム教の人は現代になっても頑なに戒律を守るのかという疑問が生まれ、イスラム世界を施策する旅となった。そんな本だったように思う。

イスラム教はコーランに神の声である教えが細かく記載されそれに従うのは絶対的なもの。それらの中でも我々が理解出来ないものの一つに、1人の男性が4人まで妻を持つことが許されている一夫多妻制。そもそも神の教えには男女平等などない。当初の「水が無い所には生物が育たない」という原則。人口の現状維持を保つには、一人の権力・財力のある強い男性が多数の妻を持ち、厳しい環境下で子供を育てるとというのが理想になる。すると世の中には結婚したくても出来ない男性が多く存在することになる。日本で結婚しない人が増加している事情とは異なる。性欲、不平等さなど欲求不満が高まった特に男性が多く存在し社会が安定しなくなる。これらの事情が女性の肌をすべて覆い隠す衣装であったり、また女性は出歩いてはいけことから社会進出が出来ない、また断食をするなど、神が下した細かな「決めごと」で人々の欲望を漬物石の如く押さえつけている。水の無い社会を安定させるために、これらをより厳格に守る「イスラム原理主義」を支持する人々も我々が想像するより多いという。

イスラムの人々の「平和」の定義は、我々が抱く戦争が無いことではなく、世界中の人々がイスラム教徒になった状態だという。それを目指して一定の信者が現在進行形中なのも確かだ。優しい佛を信ずる民には正直理解出来ない。 俊徳丸